

月の花挽歌 ～10. 月山^{がつざん}～

10-2

画家は男優の作為を見逃さなかった。

画家はある映画監督から、主役のスターはうすのろの美男子の方が扱いやすいと聞いたことがある。

しかし、目の前にいるスターは凛と見える端正さの裏に火傷しそうな炎のない熾火があることまでも、横田は深酔いしているにも拘らず飛び抜けたセンサーで感知していた。

「いきなりこんなことをお聞きするのもなんですが、もし、『カサブランカ』の企画が持ち上がった時代にあなたが存在していたとして、主役のオファーがあったとしたら、どうしますか？」と人気男優を買いかぶってしまった横田は、“君の瞳に乾杯”との辻褄を合わせるためには妙案だと勝手に自得して、はた迷惑も顧みずに勢いで訊いていた。

同席している誰もが気づかない手際で、人気男優から二の腕を弄られていた真紀は、Tからの横田に対するプレッシャーも重なり、思いきって口を開いた。「こんなに酔ってらっしゃる横田さんを見るのは初めてです。タクシーを呼びましょうか？」

「ママ、話の途中で何を言ってるんだ！失礼じゃないか！」と横田は声を荒げて言った。

「ボギーが演じたキザ男ですか？」と退屈と思いながら話を聞くともなしに聞いていた人気男優は、他者には感づかれぬ素振りで真紀の二の腕を摩りながら、その場を取り成すように言った。

「ボギー、……」と横田は不審顔で訊いた。

「私が子供の頃に流行っていた沢田研二が歌った『カサブランカ・ダンディ』って曲はご存じないですか？」と人気男優は尋ねた。

「この先生はね、さっきから無理して話に加わろうとしているんだ。ほら、言っていることがうすぼんやりしているだろう」とTは皆に同意を促すように視線を巡らせて言った。

横田は怒りを鎮めるために残っていたシャンパンを飲み干すと、お代わりを求めた。

「歌のさわりですが……」と人気男優は横田の気持ちを沈めるように言ってから、真紀の二の腕に指でリズムを刻むと口ずさんだ。

『カサブランカ・ダンディ』より抜粋

作詞 阿久悠 作曲 大野克夫

ボギー ボギー

あなたの時代はよかった

男がピカピカの気障でいられた

ボギー ボギー

あなたの時代はよかった

満席状態にもかかわらず程好い会話の波が寄せては返している『こはる』の一流クラブならではの雰囲気の中で、人気男優が色気のある低音で口ずさむ歌は、隣席には邪魔にならない加減で、同席者たちの耳にさざ波のように届いていった。